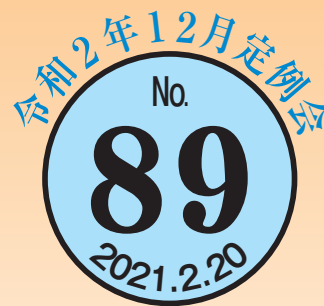




いいたて 議会だより



発行：福島県飯舘村議会
編集：議会広報編集特別委員会



1月20日まで行われていた商工会青年部によるイルミネーション
～ litate Lumiere Road 2020 ～

議案審議「ザ・議論」..... **2**

第9回臨時会、第10回定例会の質疑を掲載

一般質問「村政ここが聞きたい!!」..... **3～11**

「今後の村政運営について」など、8議員から質問

審議結果 **12～13**

議会の動き・常任委員会活動・編集後記..... **14**

ザ・議論

第9回臨時会では予算案件1件、条例案件1件、承認1件、計3件が審議され、第10回定例会では、予算案件6件、条例案件3件、契約案件5件、人事案件1件、その他4件、計19件の審議及び議論が交わされました。その議論の一部を紹介します。

第9回臨時会

(補正予算)

質問 新型コロナウイルス感染症の影響による、村内の方々の雇い止めや解雇等の状況は把握しているのか。

答弁 報道等では聞いています。村民の方々には多少の影響はあると思われますが、そのような状況は把握しておりません。

質問 新型コロナウイルス対策交付金1人1万円は、どのように周知するのか。

答弁 12月1日を基準日とし、12月1日までに飯館村に住民登録された方で、特別定額給付金1人10万円を振り込ませていただいた時と同様に、世帯主の方に1回目と同じ口座でよいか確認の通知をさせていただきます。確認でき次第、年内にお支払いさせていただきます。

第10回定例会

(補正予算)

質問 総務管理費の手数料300万円の計上について。

答弁 現在、川俣町の小学校、飯野町の給食センター跡地を売りに出しておりますが、不動産業者に、売買成立した時の仲介手数料としてお支払いするものです。売買契約額に対して約3%が一般的な仲介手数料となっております。

質問 除雪路線はどのように変更されたのか。

答弁 除雪路線1次、2次路線に関しては、現在、住宅が無いなど色々ありますが、震災当時と同じような形で行なっています。業者については、当初行政区委託等で行っていた部分がありました。現在は全部業者委託で進めております。

質問 復興震災記録施設の備品について、1700万円の補正予算となっているが、どのようなものを購入するのか。

答弁 コロナ給付金を財源として、会議用テーブル、机、椅子や防災センターであるため避難したときの間仕切り、震災記録施設ということで震災記録の展示スペースの備品、棚等の予定です。



▲改修中の復興震災記録施設

(契約変更)

伊丹沢西エリア肉用牛用施設請負契約変更について

質問 水質検査のデータで鉄が6倍・マンガンが15倍と基準値より

高い数値を示し、汚濁が6倍程度強いということで、この装置を設置するとあるが、これで解消できるのか。

答弁 この基準値を下回るようにフィルターを設置し、アフターオローの部分で保障期間内はこの数値が以下になるようにチェックしていただきます。

なお、補償期間については、通常1年間とみています。

小滝大倉線道路災害復旧工事請負工事契約変更について

質問 佐須から大倉に抜ける佐須大倉線、小滝大倉線の災害復旧工事の状況と見通しは。

答弁 昨年の台風により、甚大な被害を受けております。工期は3月25日まで延長させていただきます。一番大きく崩れた大倉の部分は残りますが、ほぼ全ての

工事が完了する見込みです。残る大倉の部分は単年度での工事は困難な為、来年度も通行止めの形で進めざるを得ない状況です。

(条例改正)

職員の給与に関する条例の一部改正について

質問 統括参事という職務を設置することによってどのようなメリットがあるのか。

答弁 村の復興創生業務が多様化しており、国や県との緻密な連携が極めて重要となる状況を鑑み、各課を統括するとともに庁内横断的な施策を調整し、村長及び副村長の業務を補佐するため、当該職務を設置したいと考えております。設置することにより、村民の方々にもきめ細かな施策についての対応ができていくものと思われます。

ズバリ 村政

ここが
ききたい!!

一般質問 Q & A

12月定例議会の一般質問には8議員が登壇し、村行政の考えや対応策について問いました。質問順に質疑応答を要約し掲載しています。

渡邊 計 議員

P 4

- 1 これまでの政策と今後の政策に
関して

相良 弘 議員

P 5

- 1 今後の村政について
- 2 バランスシート作成について

高橋孝雄 議員

P 6

- 1 国道399号線の早期改良について
- 2 4級、5級村道整備について
- 3 国及び県管理河川の土砂撤去に
ついて

佐藤八郎 議員

P 7

- 1 生活環境について
- 2 村民への生活支援について
- 3 行政執行のあり方について

長谷川芳博 議員

P 8

- 1 農地の集約化について
- 2 村内の商店（スーパー）の出店要請
について

高橋和幸 議員

P 9

- 1 観光業を整備した早急なる地方創生
について
- 2 GIGAスクール構想について
- 3 自治体のSDGs活用戦略について
- 4 帰還困難区域内外の解除に向けた
在り方について
- 5 20行政区について
- 6 村長の政治姿勢について

佐藤健太 議員

P 10

- 1 来年度当初予算編成方針について
- 2 「きまり」について
- 3 農林商工業の振興発展について
- 4 SDGs（持続可能な開発目標）
について
- 5 飯館高について
- 6 村内の環境整備について
- 7 ふるさと納税について

長正利一 議員

P 11

- 1 村政運営について
- 2 インフラ整備について
- 3 帰還困難区域の避難指示解除について
- 4 確定申告について



渡邊 計 議員

質 6町村協議会への復帰について

答 村の復興・振興は、村単独では成しえないものと認識している

質問 6町村協議会に

返るのか、戻らない状態

で足並みを揃えて取り組むのか伺う。

質問 町村ごとに状況

や方向性も違うので、各町村長とお話をさせていた中で、いろいろな可能性を否定せず前向きに検討していきたいと考えております。

長泥地区について

質問 解除要件及び見

令和3年度予算について

質問 令和3年度予算

はどこに重点を置いた編成になるのか伺う。

質問 「明日が待ち遠

しくなるようなワクワクする楽しいふるさとを築き上げる予算」をキーワードに、「ふるさと」に愛着を持ち、自ら楽しみその喜びを共有する「ふるさとの担い手」が「主役」かつ文字通り「担い手」であることを実感する施策展開ができるよう進めてまいりたいと考えております。

具体的に一点目は、財源の確保と捻出、投資効果の最大化を図る「経営」視点に立った予算編成。

二点目は、無駄を徹底的に省き、復興事業、自治業務の効率化、統廃合を含めた総合的な見直しを図ること。

三点目は、新たな提案・提言を含めた施策展開に必要な予算編成。

四点目は、新型コロナウイルス禍に対応した予算編成。

このような事項を基本に、健全財政を維持し村民の福祉向上施策に予算を重点的に配分していくことが重要と考えております。

カメムシについて

質問 カメムシ防除対

策と野焼きについて伺う。

答 米の等級格付けが落ちた理由の95%がカメムシによる着色となつています。県やJAと協議しており、幼虫防除と成虫防除の薬剤による一斉防除、及び早春の野焼きの実施、畦畔・休耕田の草刈りの徹底に努めてまいります。野焼きについては、延焼防止、実施期間の拡大、実施方法の簡便化を図り新たなルールを検討した上で行政区に周知してまい

りたいと考えております。

過疎・高齢化について

質問 現状と今後の対

策について伺う。

答 12月1日現在、

村民全体数5259人中65歳以上は2040人で高齢化率は38.8%です。村内居住者だけですと1486人中、65歳以上は838人で高齢化率は56.4%です。高齢者が健康づくりをしながら生きがいを持つて暮らせるような事業に取り組みながら、村民の帰村、若者の定住促進を進めてまいります。

蔵平のバイオマス事業について

質問 どのように考えて

いるのか伺う。

答 木質バイオマス施設を整備することに

後述

より、森林資源の活性化と森林再生の環境改善、雇用の創出が期待できます。また、将来的には熱を利用した新たな農業展開と特産品づくりにも期待できるものと考えております。

村長が代わり、今後政策も変わっていく中で、行政の仕事とは何か？ 村民の生活と生命を守るのが行政の仕事であり、それらに関する予算編成・行政執行が正しく行われているか監視するのが我々議員の役目である。

村民の代表・代弁者として質問をし、意見を延べ提案・提言していくのが議員の仕事であると強く再認識し、村の振興（村長）・新興（私的）に向かって進んでいきたいと思っております。



相良 弘 副議長

質 飯館村のビジョンについて

答 自らが未来を選び取り、また未来を形づくっていくことを実感する施策を展開していきたい

質問 村長は出馬会見の際、前村長の後継者ではないと明確におっしゃっている。その違いを伺う。

答弁 私が受け継ぐべきは先人と村民のその思いと努力であって、また課題であります。

誰か一人のものだけを受け継ぐものではないという趣旨でそういう表現をしました。

村の事業については

自治業務というものを

ふまえて、継続すべきを検討してまいりたいと考えております。

質問 村民がわくわくするようなこととは、具体的にどういうことか伺う。

答弁 村民一人ひとりが自らの為に、あるいは村の為に自分たちの営みの中に楽しみを見つけていくことがしっかりとできることだと考

えております。

村民の帰村施策について

質問 今後の帰村をどんなふうに進めるのか伺う。

答弁 帰村を進めるためインフラ整備、医療体制の確保など、村内の環境整備を進めてまいりました。今後も国の動向も注視しながら検討し、進めて参りたいと考えております。

質問 避難している村民が帰村しない最大の理由は買い物をする場所が無い事だと考えるが、特に生鮮製品の販売場所がない。買い物場所の確保について伺う。

答弁 買い物のニーズは非常に高いものと認識しております。今後、固定店舗の誘致や買い物の足の確保、訪問販売等も含めて何が出来るのか可能性を探って

いきます。

林業施策について

質問 農林業は飯館村の基幹産業と聞いている。村長は林業政策をどう考えているのか。

答弁 ふくしま森林再生事業による環境整備は現在まで、佐須字前乗地区で行っており、今後は草野字立堀地区と二枚橋地区において行う予定です。引き続き各種補助事業を活用し、森林の再生による働く場の確保、地域振興等を行っていきます。



▲整備が待たれる村内の森林

質問 飯館村の林業は原発事故災害という特殊な事情がある。林業

は他の産業とは違って、植樹をしても翌年所得が生まれるというものではない。

様々な面を考慮して、林業に対する支援を今後どうしていくのか伺う。

答弁 村の森林については、放射線量が問題となっています。北の方から森林施業計画を立てて事業をすすめています。計画が北の方からなので、村全体に行き渡るにはかなり長い期間を要すると考えております。今後は木質バイオマス等の活用も検討して、総合的に進めていきます。

バランスシート作成について

質問 過去2回、バランスシートについての質問をしたが、何ら動きがないように思われる。今後、バランスシート作成の意志はあるの

か伺う。

答弁 地方公共団体の財務書類にはバランスシートとは若干形態が異なる、地方公会計というものがありません。

村では平成28年度から作成しており、令和元年度は決算資料作成後から作り始め、現在作成中です。

質問 作成後、村民や議会に公表する予定はあるのか。

答弁 完成後、県のホームページで公表しております。法律に基づいた公表の義務はありませんが、令和元年度の財務4表が出来ましたら議会にもお示しいたと考えております。

質問 どのような形でもいいので示してほしい。

答弁 まとまり次第、議会へ内容についてご説明させていただきます。必要であれば村民にもお知らせします



高橋 孝雄 議員

質 国道399号線の早期改良について

答 滝下地内については、測量調査が完了次第協議等を経て工事に着手する

質問

村内で唯一の避難区域の長泥地区が、避難指示解除されたときの交流人口を増やすためには、国道399号線の早期改良が不可欠であるが考えを伺う。

答弁

国道399号線は県管理となっているので、県へは継続的に国道399号線改良整備促進期成同盟会をはじめ、浜通り地区国道協議会、相馬地方市

町村会や村議会からも国県に要望をしてきたところですが、全面的な道路改良の事業には至っておりません。

震災前から計画していた滝下地内535mの道路改良の再開については、今年度、元氣ふくしま地域づくり交流促進事業を活用し、国有林関係の測量調査を再開しているところであります。

設計については震災前に実施済みであり測量調査が完了次第、国有林等の協議や申請等の手続きを経て、工事に着手することになっております。

長泥地区は除染で発生した除去土壌を再利用する日本で初めての環境再生事業に取組み、全国的にも多くの国民の関心が寄せられている地区でありますので、今後とも国県へは強く要望を続け、早急に道路改良ができるよう努めてまいります。

質問

長泥地区には、



▲改良を要する箇所

低線量の除染土壌を埋め立て、その上に土をかぶせて作物を栽培することになった。

国としては大変助かることなので、その見返りとして地元のためにできる限りのことをすべきである。さらに、農業施設などを整備して農産物を生産させて通行する国道399号線を早急に改良するよう村長からも強く要望してほしい。

答弁

様々な形で要望活動を積み重ねていくことが何よりも大事であります。現在も交通量が多いという現状がありますので、私としてもしっかりと要望させていただきます。

4級・5級村道の整備について

質問

生活圏の里山の間伐材を搬出するためには、4級・5級村道の整備は何としてもや

らなければならぬ仕事と思うが村長の考えを伺う。

答弁

今後の課題、検討事項であることは承知しているが、村道管理基準にあるように1級・2級・3級の上級路線の整備を優先的に実施することが基本となり、補助事業での対応ができる路線については実施可能となっているので、国県補助事業の選定や地域住民の協力による村単補助、通称道普請事業の活用、急勾配な路線については、大雨時の路面流出を防止するための舗装等を検討してまいります。

国及び県管理の河川の土砂撤去について

質問

震災から10年、村内の大河川の土砂はたまり放題だ。農業を再開した田畑に大雨が降るたびに、木材の

切れ端や泥水が流れ込み、農家は大変な苦勞をしているため、早急に撤去しなければならぬ。村長の考えを伺う。

答弁

河川の堆積土砂の撤去は福島県により平成29年度から実施されており、昨年の台風19号による被害からは緊急しゅんせつ事業債というところで、河川掘削工事に対応しています。今年度は関沢地区、山辺沢地区、比曽地区、長泥地区の除草や土砂撤去を進める計画です。

質問

飯樋川については、橋桁から川底まで2mもない状況で泥がたまっている。周りも狭まって少々の雨でも田に流れるので早急に土砂上げをしてほしい。

答弁

優先順位が県である程度勘案されるが村でも優先順位、全体的にしゅんせつができるよう要望していきたいです。



佐藤 八郎 議員

質 放射線とは、買ひ物は、賠償は

答 村民の声、願いに応えられるよう努力していく

質問 村が所有するシンチレータ等で特定可能なものは、セシウム、ヨウ素に限定とあるが、

村内全域に降散された物はストロンチウムからテルルまで31種であり、放出されるアルファ線、ベータ線は身体に影響しないのか。村長は専門的知識を持っていますので、生活する中で核種別に身体への影響と放射線防護の3原則を厳守する事をき

ちんと整理されて村民に示すべきである。

答弁 放射線を発生する線源、各放射性物質がどこにあるか認識が大切です。しかし、どこにどれだけあるのかを全て認識するのは非常に困難でありますので、外部被ばくの放射線防護の3原則、時間や遮蔽、距離などを認識することによって自分ですっきり管理することができるとはな

いかと思います。アルファ線源のように紙1枚、皮膚1枚で止まる線源であっても、外に持ち出すことで内部被ばくにつながるため、持ち出さないようにタイベックスを着るなど、線源ごとに対策は異なるため、それをすべて村民にお伝えするのは非常に難しいと思っています。3原則に限定してでもその基礎知識をもち、放射線源があることを意識しながら生活をすることも必要だと考えております。

質問 食べ物、飲み物の国の基準は原発事故前と事故後で変わっているが、東京新聞で報道されているように、

村内の山菜、きのこは村でお知らせしているように「村内でとれたきのこや山菜は売買しない」「労働の際には山の中に何時間以上いないように」としている。

村独自で村の大地全体の土壌調査を行うべきだ。前にガンマ線による計測実績もあるので、加害者がお金を出して検査して示すべきだ。今後の計測について早期に実現するべきである。

答弁 現在は、営農再開見込みのあるところの土壌検査、牧草を含めたモニタリング検査と食品のモニタリング検査を実施しています。

村全体の土壌検査が村民の方にとって有用な情報となるのか、除染が進んだり、被害により、放射性物質が表土から移動しているという状況で、土壌の検査が生活に活かされるような情報になるかどうかは別の問題だろうと考えます。

今後とも営農再開等のために必要なところは積極的に土壌検査を行っていきます。

村民の生活支援について

質問 飯館村は、村民、村全体が被害を受けた。前村長は被害を受けた村民の代表であつたが、被害の実態調査もせず、村民が奪われた権利の把握もしなかつた。

多数のADR申立など損害賠償支援も村民の立場での「責任」と「役割」を果たさない為に、個人や地区により賠償は不平等なものとなっている。

村の代表としての所見を伺う。

答弁 村民全員がそれぞれの異なる環境であり、村では個別の案件を把握しているわけではございません。

東京電力に賠償を請求する権利があるので、村としても全村民に関わる部分については、今後もしっかり対応し

ていきたいと考えております。

提案 村民の買ひ物について、震災前は村内に直売所が7カ所あつた。

草野・白石・飯樋町にミニスーパー的な直売所を開設し、現在行っている、移動販売業者などと協力し、そこから注文をとってもらい、店舗につなぐというようなサイクルで行えば、雇用の場も生まれる。村民の抛り所、集いの場ともなるミニスーパーを開設していただきたい。





長谷川 芳博 議員

質 農地の集約化・中山間農地の今後の活用は

答 担い手不足や遊休農地の解消につながる取組を検討していきます

質問 すでに数名の法人経営体が大規模営農を始めておりますが、もともと条件のよい農地の集積はしやすい。

しかし、今後力を入れていかなければならないのはそういう土地よりも、貸したいが借り手がない、小さな畑や田んぼ、山際の条件の悪い土地かと考える。

そのような条件不利

地の活用をどのように考えているのか。

答弁 平成29年度から、行政区ごとに将来の営農再開、農地集積に向けた話し合いを進めて参りました。その結果をもとに、用排水路や暗渠等の整備を行うと共に、令和元年度からは意欲ある担い手への農地集積を進めております。

なお、これまで蔵平、長泥行政区を除く18行

政区において担い手への農地集積に向け、話し合いを進めています。が、圃場整備がされている条件の良い農地には借り手がいる一方、条件が不利な農地については借り手の確保に苦慮している状況にあります。

質問 山際や小区画不整備農地を基盤整備し、利用しやすい農地としてはどうか。

答弁 村として、そのような条件不利地については施設園芸や花卉栽培などの畑地作物であれば導入しやすいのではないかと考えております。現在、そういった農家のやる気のある方々につきましては、営農再開支援事業やなりわい農業、そういったものを活用していただき、多くの皆様に農地の活用を図っていただきたいと考えております。

スーパー等の誘致について

質問 既に、村内へ移動販売業者が来ているのは承知しているが、移動販売ありきなのか。今後商店、スーパー等の誘致を視野に入れていくのかを伺う。

答弁 現在、村内において、移動販売2社、宅配サービス1社による営業が行われております。スーパー等の誘致につきましては、以前より整備を求める声が寄せられており、商工会と協議し、共同店舗の開設やスーパーの誘致に努めてきたところですが、帰還者が2割と少なく採算が成り立たないとのことで開店に至らなかった経緯もあります。

食料品や日用品などが購入できる店舗の整備を要望される声は多く聞いておりますので、



▲人が集まるアウトレットモール

引き続き関係機関との協議・検討して参ります。

質問 例えば、飯館村にアウトレットモールを誘致してはどうか。そのアウトレットモール内に村の農作物や特産品の販売も行い、スーパーのようなものも入れば、他所から村に人を呼び込むことになり、道の駅や風の子広場、ドックランなどの集客にもつながるのではないかと考えるが、村長の考えを伺う。

答弁 アウトレットモールということ、非常に具体的なご提案をいただいたところではあります。が、飯館村を取り巻く環境は、常磐道等のインターチェンジが近くにできたり、1時間圏内であり、交通の便が良い環境が整ってきており、従来の位置づけとはまた違う将来像もあり得るだろうと考えております。

しかし、そのような施設は必ず近くにインターチェンジがあったり、ホテルがあったりと色々な事が付随して整備される必要があるのではないかと考えていますので、慎重に考えるべきだと思っております。

片や、飯館村の開けたところはほとんど農地であり、農地としての利用を優先させていただきたいと考えております。



高橋 和幸 議員

質 観光業を整備した早急なる地方創生について

答 親しみと愛着が持てる施設活用を検討

質問

村内に人の誘致を行える、ユーモアセンスを備えつつ、スキルを兼ねた魅力のアピールできる拠点・起点が望まれるが、行政の見解と対応策について伺う。

答弁

村の活性化の為に、多くの方に村に来ていただき、村の魅力を見て感じていただくのは重要であり、村でもこれまで、特徴的な村ならではの施設整備

を進めてまいりました。道の駅までい館には花玉をつりさげ、風の子広場にはエアードームと特徴的な大型遊具を設置し、復興公営住宅も住みやすさとデザインにこだわり村の特徴的な景観となっております。パークゴルフ場も整備しました。

今後は村民はじめ村外の方もより親しみと愛着が持てる施設の活用を検討していきます。

GIGAスクール構想について

質問

新しい学習指導要領と共に多様な子供達に最適化した創造性を育む教育の実現のための本村の取組施策と現状を伺う。

答弁

新学習指導要領では、子供達が自ら考え、対話し思考を広げ深い学びによって、変化の激しい社会に必要な生きる力を育むという目標を掲げています。本村では今年度より義務教育学校になった特性を活かした学習が展開され、タブレット端末による授業も行っています。令和3年度春からは、GIGAスクール構想により新たに65台のタブレット端末が導入される事で、これまで以上にきめこまやかな指導や事業展開を行うことができます。今後は教員のICT活

用指導力の向上、情報モラルをはじめとする情報教育の充実など、ソフト面における教育改革が必要だと考えています。

SDGs活用戦略について

質問

農産業の多目的かつ多面的な生産労働の効率化を図り、3密を回避し、変化して不確かな状況でも持続可能な地域実現の為に、行政の現実的な目標指数を伺う。

答弁

村長の掲げる5つの施策と第6次総合振興計画の内容を踏まえ、目標指数をどの様に定めるか、SDGs活用の有無と併せて検討して参ります。

帰還困難区域内外の解除に向けて

質問

現在進行中の在り方、既存の物事を済ませてからの情報発信

で本当に良いのか。行政の見解を伺う。

答弁

長泥地区住民の意見をよく聞いた上で、議会とも相談させていただき、丁寧に対応して参ります。

報道機関等が独自に入手した情報など、村以外からの情報が公開されることについては、対応が難しいことを御理解願います。

20行政区について

質問

今後の人口推移の見通し、行政区割りを視野に入れる時期を迎えつつあると察するが、行政の見解や住民感情等を考慮し、その影響を伺う。

答弁

行政区の再編につきましましては、現在のところは考えておりません。

今後、状況も見て検討が必要になった場合は、議会や行政区と相談させていただきたい

と考えています。

村長の政治姿勢について

質問

村長が掲げる5つの施策には大変共感するが、言うは易く為すは難くもあるのが事実と思われる。

今後の重要取組課題及び、村政運営、人や担い手づくりの具体的な施策を伺う。

答弁

「明日が待ち遠しくなるようなわくわくする楽しいふるさと」の目標を掲げ、5つの方針を練り出したところですが、課題は数多くありますが、復興創生期間の第2期という国の動きも捉えながら、国や県、関係機関と協議、連携、協力の下、村民の皆様と一緒に楽しいふるさとづくりを進めてまいりたいと考えております。



佐藤 健太 議員

質 令和3年度の当初予算編成方針及び基本的事項と、重点項目について伺う

答 重要視点としては、コスト・経費をかけるから、プロフィット・利益を生み出す姿勢への転換や、村民に任せる業務、事業、行政委託事業等の検討、ふるさとに愛着が持てる事業への転換としている

きこりの運営について

質問 「きこり」の運営状況と今後の方針について伺う。

答 昨年度の営業収入は1289万1000円、営業外収入は

3520万6000円で、合計4809万7000円となっています。人件費や施設維持経費等の支出額は4794万5000円となっており収支上は黒字ですが、震災以降、営業外収入として国の

補助金を活用し施設の運営を行っており、国の支援がなければ赤字経営となっています。

質問 「きこり」に入っ
てすぐ右側の食堂のスペースを、すぐに利用する計画がないのであれば、例えば屋内運動場にあるスポーツジム機能を移動し、ジムを使用していたで、そのまま「きこり」のお風呂も使っていたら、そういったプランにもつなげることができる。

また、鍵の管理や防犯面から不安を感じる部分があると思っていますので、そういった面からも、「きこり」は管理人さんが24時間いらつしやいますので、そこでスポーツジム機能を使えるというのは、利用者としても非常に安心感があるし良いのではないかと考えるが如何か。

答 「きこり」の空きスペースを利用してジムということでありま

すけれども、非常にいいアイデアをいただいたと思います。「きこり」はお風呂があるというのは、大きな利点だと思っており、そうした村の施設を、お風呂という観点から結びつけるというのは、今までなかったかなと思いますので検討してまいりたいと考えております。



▲宿泊体験館きこりの空きスペース

村内の環境整備について

質問 避難中には手

付かずであった為か、村内の多くの桜の木に「てんぐ巣病」がついてしまっているが、まったく手入れがされていない。

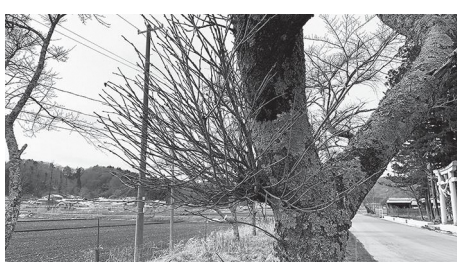
また、避難指示解除後も多くの桜が植樹をされておりますが、このままでは「てんぐ巣病」が広がってしまう、枯れてしまうおそれがある。早急に手だてを考える必要がある。村の見解を伺う。

答 全村避難により、村民による桜の管理ができなかったことから「てんぐ巣病」が増え、桜の開花時期に目立つようになっていることはご指摘のとおりであります。

現時点では、薬剤での防除方法が確立されておらず、病巣部を切除するしか有効な対策はなく、一度の除去作業では取り残しなどがあるため、3年程度は

継続した除去作業が必要になってくるように聞いております。このことから、村内にある「てんぐ巣病」にかかった桜の整備に取り組みには、多年度にわたつての対策が必要であり、同時にその後の維持、保全管理も必要になります。

村としては、ふだんから桜を身近に親しんでいる地域の方々に、見つけ次第こまめに除去作業を行っていたりなどの対応を考えております。



▲てんぐ巣病の発生した桜



長正 利一 議員

質 これからの村政運営について

答 明日が待ち遠しくなるようなワクワクする楽しいふるさとづくりを目指す

質問 これからの4年間、どのような村づくりを進めていくのか伺う。

答弁 私たちが目指すものの原動力は、震災から立ち上がろうとする村民にあり、また、村を想い、村とつながって様々な立場で協力をいただいている、あるいはただの方々の営みにあります。このような「ふるさとへの担い手」が主役であり、また、

策を展開して参ります。

これからのふるさと再生、そして発展のためには、課題が数多くあります。村民をはじめとする「ふるさと

の担い手」の皆様の声やご意見を伺いながら、また議会の皆様からのご指導をいただき、国・県・関係機関と緊密に連携し、課題を一つひとつ解決していきます。

インフラ整備について

質問 生鮮食料品を購入

入できる店舗が無く、隣接する町への買出しを要し、不便な生活を強いられているが、今後どのような対応を講ずるのか伺う。

答弁 不便であるとい

う村民の声は以前よりいただいております。商工会など関係機関と協議し、共同店舗の開設やスーパー等の誘致に努めてきたが、経営的に厳しいとの理由から開店に

は至らなかった経過があります。引き続き関係機関と協議しながら、検討してまいります。

また、今年度より村社会福祉協議会への委託事業として実施している「生活支援ワゴン」については、週2回の運行で11月までに延べ270名のご利用があり、村民の皆様の買い物支援の足として重要な役割を担っていると考えております。

今後も、生活の利便性向上に係る施策は総合的な検討が必要であることから、関係機関並びに村民の皆様の声を聞きながら検討してまいります。

帰還困難区域の避難解除について

質問 予定通り復興拠

点区域外も含めて避難指示を解除するのか伺う。
答弁 長泥地区の特定復興再生拠点区域につ

いては、先に避難指示が解除された他の区域と同じく3つの要件により解除の判断がされるものと考えております。

1つ目は空間線量率で推定された年間積算線量20ミリシーベルト以下になることが確実であること。2つ目は子どもたちの生活環境を十分に進捗し、日常生活に必要なインフラや医療・介護・郵便などの生活関連サービスが概ね復旧していること。3つ目が県、市町村、住民との十分な協議であります。解除の時期については、これらの要件を踏まえながら、令和5年春を目指し、今後、住民、村議会と、解除に向けた協議・検討をしてまいります。

区域外の避難解除については、現時点では解除要件が国から示されておりませんが、今

後、何か示されましたら、内容を精査し、長泥地区住民の意見をよく聞いたうえで、議会とも相談して参ります。

確定申告について

質問 共働き世帯が多

い中、仕事を休んで申告へ行くのは大変だ。数回程度、日曜日に設定はできないのか伺う。

答弁 来年の納税相談は、新型コロナウイルス感染症予防対策を十分に行いながら、来年2月8日から3月15日の日程で実施し、今回から受付時間を1時間又は2時間延長する日を平日に設けることで検討しております。

なお、日曜日の実施については、避難先の遠方から来られる村民もおおいことから、利便性のある納税相談の実施に向けて、今後、検討して参ります。

審 議 結 果

令和2年第9回臨時会(11月)では予算案件1件、条例案件1件、承認1件が提案され、議決されました。

議題は下記の通りです。

○議案第116号 令和2年度飯舘村一般会計補正予算(第8号)

新型コロナウイルス感染予防衛生資材等購入等として、5,421万円を増額し、総額を149億2,021万3千円とする。

○議案第117号 村長等の給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例

国の人事院勧告による給与改定。

○承認第2号 専決処分の承認について

専決第3号 令和2年度飯舘村一般会計補正予算(第7号)

村議会議員補欠選挙費439万6千円の補正。

令和2年第10回定例会(12月)では予算案件6件、条例案件3件、その他案件7件、発議2件、請願1件が提案され、議決されました。

議題は下記の通りです。(◎は可否の表決議案です。)

○議案第118号 令和2年度飯舘村一般会計補正予算(第9号)

既定予算総額に、1億8,617万3千円を増額し、総額を151億638万6千円とする。

○議案第119号 令和2年度飯舘村国民健康保険特別会計補正予算(第2号)

既定予算総額に、253万4千円を増額し、総額を12億3,989万8千円とする。

○議案第120号 令和2年度飯舘村簡易水道事業特別会計補正予算(第3号)

既定予算総額に、75万6千円を増額し、総額を4億3,642万8千円とする。

○議案第121号 令和2年度飯舘村農業集落排水事業特別会計補正予算(第2号)

既定予算総額に、65万9千円を増額し、総額を4,832万2千円とする。

○議案第122号 令和2年度飯舘村介護保険特別会計補正予算(第3号)

既定予算総額に、411万円を増額し、総額を11億9,681万6千円とする。

○議案第123号 令和2年度飯舘村後期高齢者医療特別会計補正予算(第2号)

既定予算総額に、4万7千円を増額し、総額を7,390万7千円とする。

○議案第124号 飯舘村国民健康保険税条例の一部を改正する条例

国民健康保険の軽減判定所得の算定において、基礎控除額相当分の基準額を33万円から43万円に引き上げるなどするものです。

○議案第125号 飯舘村後期高齢者医療に関する条例の一部を改正する条例

地方税法等の一部改正により、還付加算金の引き下げや語句の整理等を行うもの。

○議案第126号 村道路線の認定について

道の駅の東側及び西側、飯樋字大西地内に整備した道路を村道として認めるもの。

- 議案第127号 被災地域農業復興総合支援事業基幹事業 農業用施設等整備工事 (伊丹沢西エリア肉用牛用施設)請負契約の変更について
株式会社 アシストジャパンと412万9,400円増額し、総額2億1,418万7,600円に変更する。
- 議案第128号 被災地域農業復興総合支援事業基幹事業 農業用施設等整備工事 (伊丹沢南エリア肉用牛用施設)請負契約の変更について
株式会社 アシストジャパンと552万7,500円増額し、総額2億5,852万7,500円に変更する。
- 議案第129号 令和元年度 災第910号 小滝大倉線道路災害復旧工事請負契約の変更について
後藤建設工業株式会社と161万5,900円増額し、総額8,873万5,900円に変更する。
- 議案第130号 農業水利施設等保全再生事業 ため池放射性物質対策工事請負契約の変更について
株式会社小野中村と1,634万7,100円増額し、総額1億1,424万7,100円に変更する。
- 議案第131号 福島再生加速化交付金事業 飯舘村簡易水道監視設備等整備工事請負契約の変更について
荏原実業株式会社東北営業所と85万8,000円増額し、総額4億2,551万3,000円に変更する。
- 追加議案第132号 職員の給与に関する条例の一部を改正する条例
各課を統括・調整し、村長・副村長の補佐をするため、「統括参事」を設置する。
- 追加議案第133号 副村長の選任について
現建設課長、高橋祐一氏を任命、今年度は建設課長を兼務する。
- ◎発議第1号 原賠時効特例法の消滅時効終期の再延長を求める意見書
- ◎発議第2号 原子力損害賠償紛争審査会による中間指針の見直しを求める意見書
- ◎請願第2号 復興アドバイザー 田中俊一解任の請願【不採択とすべきもの】

◎の表決の結果

議員氏名	長谷川芳博	佐藤健太	長正利一	佐藤一郎	高橋孝雄	高橋和幸	渡邊計	佐藤八郎	相良弘	賛成	反対	議決結果
議案名												
発議 第 1 号	○	○	×	×	×	○	○	○	×	5	4	可 決
発議 第 2 号	○	○	×	×	×	○	○	○	×	5	4	可 決
請願 第 2 号 【委員長報告は不採択とすべきもの】	○	○	○	○	○	○	×	×	○	7	2	可 決 【不採択とすべきものに決定】

○は賛成、×は反対を表しています。

議会の主な動き (10～12月)

《10月》

8日

- ・福島県町村議会議員研修会

《11月》

10日

- ・総務文教常任委員会所管事務調査

11日

- ・産業厚生常任委員会所管事務調査

29日

- ・議会運営委員会
- ・全員協議会
- ・第9回臨時会

(本会議)

《12月》

8日

- ・議会運営委員会

11日

- ・全員協議会
- ・第10回定例会本会議
- (開会)
- ・産業厚生常任委員会
- ・総務文教常任委員会

15日

- ・本会議(一般質問)

16日

- ・本会議(一般質問)
- ・全員協議会

18日

- ・議会運営委員会
- ・全員協議会
- ・第10回定例会本会議
- (議案審議・閉会)

- ・広報編集特別委員会

常任委員会の活動

総務文教常任委員会所管事務調査

令和2年11月10日に飯館村役場第2委員会室において防犯及び防災対策について所管事務調査を行いました。

調査内容

1. 飯館駐在所の川尻班長から、村内の犯罪状況について、住

民課長から防犯対策の現状と課題、飯館駐在所との連携について聞き取り調査を行いました。

2. 総務係長から防災対策について、現在の防災対策と防災計画の進捗状況について聞き取り調査を行いました。

所見

1. 防犯について

① 駐在所との連携を密にする必要がある。

② 犯罪が多い地区については情報を区長にも知らせるべき。

③ 村内に設置してある防犯カメラも犯罪の抑止力になるため、



▲総務文教常任委員会所管事務調査の様子

ある程度は残すべき。

2. 防災対策について

① 昨年の台風19号の被害の状況を反映させた防災計画にするべき。

② 避難所について、再検討が必要な箇所もある。

③ いつも被害が起きる場所は決まっているので、被害が出ないようになか対策をするべき。

④ 消防等関係機関と連携をとってほしい。

産業厚生常任委員会所管事務調査

令和2年11月11日、飯館村役場議員控室において、産業振興課長から農業振興に係る現状と課題について、農地中間管理事業の進捗状況について聞き取り調査を行いました。

調査内容

1. 農業振興に係る現状と課題について

営農再開状況は、米

128.9 ha・花卉3.

7 ha・牛402頭・養鶏

12万羽・野菜4.4

ha・そば60.5 ha他

2. 中間管理事業の進捗状況について

令和元年度に上飯樋地区で115 haを集積。

今年度は、関根・

松塚地区が着手し、

令和3年度は7地区、

令和5年末までに19

地区、928.2 haを着手予定。

所見

① 除染後の農地に係る排水路の整備や圃場整備と大型機械化に向けた基盤整備が必要である。

② 農業の担い手不足が課題であり、魅力ある農業の展開が不可欠である。

③ 将来、バイオマス発電施設から出る熱利用による新たな農業の展開もある。

編集後記

昨年から感染が確認された新型コロナウイルスの感染は、猛威を振るい大都市では非常事態宣言が発令され、県内でも不要不急の外出自粛の要請が出されています。

令和3年が、始まりました。村民の皆さん、共に「世界」の「日本」の「飯館村」の未来のために、皆でこの事態を乗り越えましょう。

発行責任者

議長 菅野 新一

編集

広報編集特別委員会

委員長 相良 弘

副委員長 佐藤 健太

委員 高橋 孝雄

〃 長正 利一

〃 渡邊 計

〃 佐藤 一郎

〃 高橋 和幸